

大会企画 | 第40回医療情報学連合大会（第21回日本医療情報学会学術大会）

📅 2020年11月19日(木) 9:20～11:20 🏢 B会場 (コンgresセンター3階・31会議室)

大会企画2

インターネットを活用した医療提供サービスのこれから～患者を慮る仕組みづくり～

オーガナイザー：小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

座長：小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

[2-B-1] インターネットを活用した医療提供サービスのこれから～患者を慮る仕組みづくり～

*小林 利彦¹、加藤 浩晃^{2,3}、鈴木 哲^{4,5}、井上 真智子⁶、小林 大介⁷ (1. 浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター, 2. デジタルハリウッド大学大学院, 3. アイリス株式会社, 4. 株式会社ストローハット, 5. 慶應義塾大学SFC研究所, 6. 浜松医科大学 地域家庭医療学講座, 7. 神戸大学大学院医学研究科医療システム学分野)

キーワード：internet line、medical network system、online medical care、medical education、medical policy judgment

新型コロナウイルス感染症の発生とは関係なく、これまでも様々な情報通信機器を用いた医療活動や診療・教育等への応用は注目されていた。しかし、法的な制約や費用対効果の問題などから比較的限られた利活用にとどまっていた感がある。ところが、2020年4月7日の緊急事態宣言の発令以降、これまで以上にインターネットを利用した日常診療や地域連携、医学教育、医療施策への意思決定支援などが求められている。そのような状況下、今回の社会変化が起こる以前よりオンラインを活用した医療活動に積極的に関わってきた先駆者（4名）にご登壇いただき、各領域における現状の課題と今後の方向性について発言してもらう予定である。加藤氏からはオンライン診療とAIについて今後の展開を話していただき、鈴木氏からは地域医療情報ネットワークシステムの今後の在り方を、井上氏からは若手医師向けのオンライン教育を中心に、小林氏からはビッグデータを活用した医療施策等への応用と今後の活用について解説していただくつもりである。なお、副題として「患者を慮る仕組みづくり」を付記した理由は、本大会のテーマである「医療をはかる」を意識したということもあるが、インターネットの利活用が医療関係者や行政職員にとって都合が良いということではなく、あくまで患者にとって有益な医療提供サービスにつながるべきとの思いからである。

本シンポジウムにおける議論等が今後の医療界の発展と医療情報の活用推進に何らかの「夢」を提供できることを願っている。

大会企画：インターネットを活用した医療提供サービスのこれから ～患者を慮る仕組みづくり～

小林 利彦^{*1}、加藤 浩晃^{*2,3}、鈴木 哲^{*4,5}、井上 真智子^{*6}、小林 大介^{*7}

^{*1} 浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター、

^{*2} デジタルハリウッド大学大学院、

^{*3} アイリス株式会社、

^{*4} 株式会社ストローハット、

^{*5} 慶應義塾大学 SFC 研究所、

^{*6} 浜松医科大学 地域家庭医療学講座、

^{*7} 神戸大学大学院医学研究科医療システム学分野

The future of medical services utilizing Internet line

Toshihiko Kobayashi^{*1}, Hiroaki Kato^{*2,3}, Tetsu Suzuki^{*4,5}, Michiko Inoue^{*6}, Daisuke Kobayashi^{*7}

^{*1} Healthcare and Welfare Support Center, Hamamatsu Medical University Hospital,

^{*2} Digital Hollywood University Graduate School, ^{*3} Aillis Inc.,

^{*4} Straw-Hat Corporation Inc.,

^{*5} Keio Research Institute at SFC,

^{*6} Department of Family Medicine, Hamamatsu University School of Medicine,

^{*7} Kobe University Graduate School of Medicine, Division of Medical and Healthcare Systems

Keywords: internet line, medical network system, online medical care, medical education, medical policy judgment

1. 本セッションの趣旨

新型コロナウイルス感染症の発生とは関係なく、これまでも様々な情報通信機器を用いた医療活動や診療・教育等への応用は注目されていた。しかし、法的な制約や費用対効果の問題などから比較的限られた利活用にとどまっていた感がある。ところが、2020年4月7日の緊急事態宣言の発令以降、これまで以上にインターネットを利用した日常診療や地域連携、医学教育、医療施策への意思決定支援などが求められている。そのような状況下、今回の社会変化が起こる以前よりオンラインを活用した医療活動に積極的に関わってきた先駆者(4名)にご登壇いただき、各領域における現状の課題と今後の方向性について発言してもらおう予定である。加藤氏からはオンライン診療とAIについて今後の展開を話していただき、鈴木氏からは地域医療情報ネットワークシステムの今後の在り方を、井上氏からは若手医師向けのオンライン教育を中心に、小林氏からはビッグデータを活用した医療施策等への応用と今後の活用について解説していただくつもりである。なお、副題として患者を慮る仕組みづくりを付記した理由は、本大会のテーマである「医療をはかる」を意識したということもあるが、インターネットの利活用が医療関係者や行政職員にとって都合が良いということではなく、あくまで患者にとって有益な医療提供サービスにつながるべきとの思いからである。

本シンポジウムにおける議論等が今後の医療界の発展と医療情報の活用推進に何らかの「夢」を提供できることを願っている。

2. 本セッションの構成

本セッションは以下の構成で行う。

招待講演1) 加藤 浩晃 (京都府立医科大学・デジタルハリウッド大学大学院)

「遠隔医療と医療 AI の今後の展開」

招待講演2) 鈴木 哲 (株式会社 ストローハット・慶應義塾大学 SFC 研究所)

「医療情報連携ネットワークの課題から探る今後の在り方」

招待講演3) 井上 真智子 (浜松医科大学 地域家庭医療学講座)

「へき地での総合診療医育成におけるインターネット活用—その意義と可能性—」

招待講演4) 小林 大介 (神戸大学大学院医学研究科医療システム学分野)

「ビッグデータの医療施策等への応用と今後の活用」